令和7年度　小平市立上宿小学校　学校評価報告書

学校教育目標　◎かしこい子　豊かな情操に支えられた創造的思考力の育成　○やさしい子　相手の心情を考えるやさしさと連帯感の育成
○がんばる子　ねばり強く追求する意志力の育成　○じょうぶな子　心身ともに健康で前向きに生きる力の育成

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　「楽しい」「明日も来たい」上宿小　～学校にかかわるすべての人の誇りとなるように～
【目指す児童・生徒像】　めあてをもって主体的に学ぶ上宿の子
【目指す教員像】　人を大切にし、魅力ある授業を実践しようとする教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

○9割の方が学校からの情報が保護者や地域へよく伝わっていると感じている。 ○校内研究で取組みにより、総合的な学習時間・生活科における学びのスパイラルのイメージができた。
▲児童の基礎的・基本的な学習内容の定着が十分ではない。 ▲CSとしてプロジェクトチームの取組、教育課程説明会は実施したがが保護者・地域の方々のCSに対する認知が不十分である。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
個別最適な授業の実践	授業のねらいの明確化や児童に考えさせるための発問、ICTの活用を生かした個別最適な学びを取り入れ、年3回の公開授業を行う。	3 86%	3 86%	○各学年や教科の実態に応じて、めあてを立てたり、振り返りをしたりして、学習した内容の定着を図れている。 ▲課題：一人一人に課題をもたせることができる教科とそうでない教科があったり、児童が自分にあった振り返り（学習評価）ができているか分かりづらい。 ⇒教科の特性や学習内容にもよるが、できるだけ一人一人にあった課題をもたせることができるように意識していったり、振り返り（学習評価）の仕方を検討していく。				
	活用のねらいを明確にして、学習者用端末を活用する。	4 93%	3 87%	○意見の共有で学習支援アプリを使うことで、対面でするより、多くの児童と意見交流をすることができている。また、デジタルドリルの活用も昨年より増えてきている。 ▲課題：どのようなねらいで学習者用端末を使用するのかを分かっていない児童がいる。 ⇒学習者用端末を使う場合とノートに各場合の意図を明確に伝えたり、児童に考えさせたりすることで、効果的な使用場面を意識して行けるようにしていく。				
学力向上	年間を通して、週2回の上宿タイム、週2回の読書タイム、毎月の詩の暗唱に取組む。東京ベーシック・ドリルの診断テストで平均正答率を7割にする。	4 100%	1 58%	○ベーシックドリルの診断テストの結果をもとに、児童の苦手な分野に絞って課題を出すことで、より効果的な学習ができるようにしている。 ▲課題：児童の様子を見ていて、さらなる反復練習が必要だと感じる。 ⇒デジタルドリルだけはなく、プリントに取り組む時間を増やすなどの取り組みを行う。				
	詩の暗唱と学年に応じた読書の目標設定を行い、年間の目標を達成する。	3 82%	4 86%	○詩のめあてを個人で決めることができるようにしたことで、自分に合った目標で取り組むことができるようになった。 ▲課題：高学年の図書の時間がなかなか確保できない。 ⇒高学年は様々な学校行事があり、学校だけで読書の時間を確保するのは難しい。読書旬間を活用して家庭に呼びかけ、家での読書時間を増やし、目標を達成できるようにする。				
健全育成	いじめを題材にした道徳の授業を全学級で学期に1回実践し、いじめの未然防止の取組を行う。	4 100%	4 87%	○特別の教科道徳の中で、全学級、必ず取り扱っている。また、身近な題材を選ぶことにより、児童が考えやすいに工夫している。 ▲課題：誰しも被害者にも加害者にもなる可能性があることをなかなか認識できていない。 ⇒教科書の話だけでなく、事例や説話も取り入れながら指導する。				
	毎月児童にアンケートを取り、内容に応じて面談をして実態の把握を行い、いじめ対策委員会、いじめ防止サポート会議など組織的に対応する。	4 100%	4 100%	○アンケートをとり、当事者の意見をしっかり聞き取りながら、指導している。必要に応じてサポート会議で取り上げ、情報共有を進めているので、特に課題はない。 ⇒今後も引き続き、丁寧な聴き取りと学校全体での対応を行っていく。				
体力向上	めあてをもち、運動へ取り組み、振り返るという学習の流れを体育の学習で実践する。	4 100%	3 87%	○学習の始めに「めあて」を設定し、ワークシートや学習者用端末で「振り返り」を行う流れができている。 ▲課題：単元の最後にどういう自分になりたいかというゴールを明確にもてない児童がいる。 ⇒単元の流れや身に付けるべき技能を始めに確認することで、児童が「なりたい姿」をイメージして学習に取り組むことができるようにする。				
地域との連携	生活科、総合的な学習の時間に地域資源を活用した学習を各学年で実践する。	3 82%		○農園でのじゃがいも堀り福祉体験などを通して、児童の学びの幅を広げることができている。 ▲課題：1学期ということもあり、外部と連携していない学年もある。 ⇒2学期以降、どの学年も地域人材を生かした学習を計画しているので、着実に実行し、児童の学びを深めていく。				
	年間10回の学校運営協議会を開催し、プロジェクトチームを中心に検討し、具体的な取組を行うともに教育課程説明会を実施する。	3 80%	4 85%	○今年度から地域や保護者の方の話を先に行うことにしたことで、昨年度までより、地域や保護者の方が積極的に話し合いに参加し、議論が活発になった。 ▲課題：話し合って決まったプロジェクトを学校や地域全体の取り組みを実現し、その効果を検証していく必要がある。 ⇒プロジェクトチームごとの内容を全体で共有し、実際に取り組み、進捗状況や成果を報告し合う。				
働き方改革	会議や学校行事における取組の精選等を行い、学年で相談する時間及び授業準備の時間を確保する。月50時間を超える時間外勤務をなくす。	4 93%	3 87%	○会議の時間設定や下校時刻の繰り上げ、ICTの活用などで、放課後に児童の情報交換や教材研究をできる時間が増えた。 ▲課題：勤務時間内に終わるように意識しているが、なかなか勤務時間内だけで仕事を終わらせるのは、難しい。 ⇒優先順位をつけたり、空き時間が合うときに、学年で相談したりする。				